

# 写真に基づくトカラ列島口之島におけるムカゴソウの初記録

坂野慧悟<sup>1</sup>・角野和史<sup>2</sup>・阪口翔太<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 〒 606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科森林科学専攻

<sup>2</sup> 〒 606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻

<sup>3</sup> 〒 606-8501 京都府京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院人間環境学研究科

## Abstract

An endangered species of orchid *Herminium lanceum* (Thunb. ex Sw.) Vuijk was reported for the first time on Kuchinoshima Island, Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan, based on photographic evidence. Previously, in the Tokara Islands, this species was known only from the islands of Nakanoshima, Gajajima, Suwanosejima, Tairajima, and Akusekijima. The individuals were found in narrow grass strips between thickets of *Pleioblastus linearis* and a hiking trail. Maintenance of this environment may be important for the survival of this population.

## はじめに

ムカゴソウ (*Herminium lanceum* (Thunb. ex Sw.) Vuijk) は、亜寒帯から熱帯のアジア地域、ニューギニアにかけて広域に分布するラン科植物である(遊川, 2015; Raskoti et al., 2017). 日本国内では北海道西南部から琉球まで分布し(遊川, 2015)、鹿児島県内では本土部から沖永良部島まで広く分布することが知られている(鈴木ほか, 2022). しかしながら、トカラ列島を構成する12の島のうち、本種の分布は中之島、臥蛇島、諏訪之瀬島、平島、悪石島でしか確認されていない(木戸, 2014; 志内&堀田, 2015; 鈴木ほか, 2022). トカラ列島は生物地理区の移行帯にあたり(Komaki, 2021)、植物地理学的にも注目されてきた地域である(Nakamura et al., 2009; Kubota et al., 2011; 志内&堀田, 2015). トカラ列島における植物の分

布パターンを理解するうえでは、トカラ列島に分布限界を有する種だけでなく、ムカゴソウのように本地域を超えて分布する種の分布情報も重要である。また、本種は環境省レッドリストにおいて絶滅危惧IB類(EN)(環境省, 2020)に、また鹿児島県レッドデータブックにおいても準絶滅危惧種に選定されている(鹿児島県, 2016)。トカラ列島における本種の詳細な分布情報や、それぞれの個体群の生育環境を把握することは、保全の観点からも重要である。著者らは旅行中に、これまでムカゴソウの記録がなかったトカラ列島口之島において本種を発見したため、ここに報告する。

## 観察記録

著者らは2023年3月24日に、フリー岳の登山口周辺の標高140m付近の斜面に数十個体、およびそこから北に延びる登山道沿いに標高165m付近まで点々と十数個体のムカゴソウ属植物が生育していることを発見した(Fig. 1)。この植物は、3枚程度の広線形の葉をつけた茎を直立させ、花茎の上部に淡緑色の花を密につけていた(Fig. 1A)。唇弁は中部で3裂し、側裂片が線形に長く中裂片がはなはだ短かった(Fig. 1B)。これらの形態的特徴より、この植物はムカゴソウと同定された。口之島におけるムカゴソウの生育環境は、リュウキュウチク(*Pleioblastus linearis* (Hack.) Nakai)の叢生地と歩道との間のごく狭い面積の草地であった(Fig. 1C)。確認した個体のほとん

Sakano, K., K. Sumino and S. Sakaguchi. 2025. First record of *Herminium lanceum* (Orchidaceae) from Kuchioshima Island, Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan, based on Photographs. *Nature of Kagoshima* 51: 233–235.

✉ KS: Division of Forest and Biomaterial Science, Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Kitashirakawa-oiwake-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan (e-mail: sakano.keigo.48s@st.kyoto-u.ac.jp).

Received: 20 February 2025; published online: 20 February 2025; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_051/051-050.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-050.pdf)

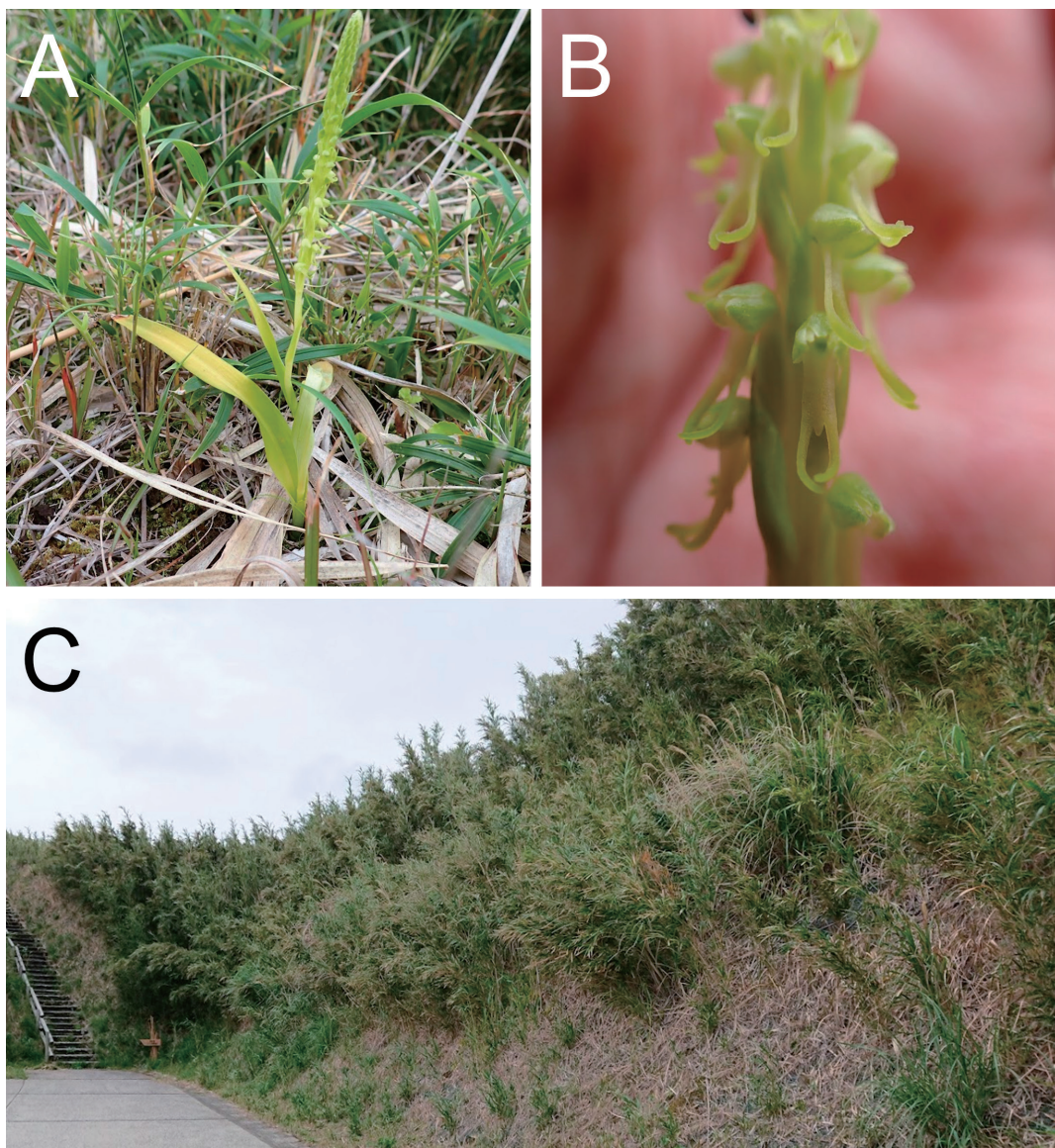


Fig. 1. *Herminium lanceum* (Thunb. ex Sw.) Vuijk. A, flowering plant; B, inflorescence; C, habitat. Photos taken in Kuchinoshima Island on 24-25 Mar. 2023.

どで外見上の傷や病徴はなく、ほぼすべての個体で開花が確認できたことから、個体群として健全な状態であると考えられた。なお、十島村では条例により、環境保全地域の特別区における植物の採取および無許可での自生植物等の村外への持ち出しが禁止されている。著者は訪問時に採集許可を得ていなかったため、ムカゴソウの証拠標本の採集は行わず、写真撮影による記録のみ行った。

#### 考 察

本報告では写真記録に基づき口之島から初めてムカゴソウを報告した。この報告は、トカラ列島における植物の分布パターンの解析やムカゴソウに関する系統地理学的研究の基盤となる情報を提供するものである。一方で、口之島でムカゴソウが見つかったのは人目に触れやすい道脇であったことから、本種の記録がないトカラ列島の他の

島においても調査が進めば、新産地が発見される可能性がある。今後、本種の分布状況を効率的かつ正確に把握するためには、島内の草地環境を指標とした調査や、開花期である春の踏査を実施することが望ましい。また、今後の分布調査においては、証拠標本に基づいて産地を記録するために、口之島産のムカゴソウについて最小限の標本を採集することも重要である。こうした調査により、トカラ列島におけるムカゴソウの分布パターン、産地数や個体数を解明していくことは、本種の保全上も意義があると考えられる。

今回、著者らがムカゴソウの生育を確認した地点は、リュウキュウチク林に隣接し、人の踏圧を受けない登山道沿いの草地であった。本種の典型的な生育環境は湿った草地であり（遊川, 2015）、環境省レッドデータブックにおける本種の危険性の主要因上位3項目のなかには自然遷移および管理放棄があげられている（環境省, 2015）。今回発見された口之島における生育地も、人為的な刈り払いによって草地が維持されなければ、リュウキュウチクによって急速に被陰されてしまう。今回発見されたこの個体群が存続するためには、こうした草地環境を人工的に維持することが重要であると考えられる。

## 謝 辞

口之島での滞在には京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻の岸田岳大氏に同行いただき、調査に多大なご協力をいただいた。滞在中は民宿くろしおの宿に宿泊し、快適な滞在環境と美味しいお食事をご提供いただいた。本報告をまとめるにあたり、京都大学大学院農学研究科森林科

学専攻の真弓慶大氏には鹿児島県内での文献の収集にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館の田金秀一郎先生にはトカラ地域やKAG標本に関する貴重な情報をご提供いただいた。以上の方々に深く感謝申し上げる。

## 引用文献

- 鹿児島県. 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物—鹿児島県レッドデータブック2016—植物編. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島. 499 pp.
- 環境省. 2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—8植物I（維管束植物）. ぎょうせい, 東京. 646 pp.
- 環境省. 2020. 環境省レッドリスト2020. 環境省. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (参照2025年2月14日)
- 木戸伸栄. 2014. 諏訪之瀬島の植物. 福祉社会学部論集, 33(2): 47–64.
- Komaki, S. 2021. Widespread misperception about a major East Asian biogeographic boundary exposed through bibliographic survey and biogeographic meta-analysis. *Journal of Biogeography*, 48(9): 2375–2386.
- Kubota, Y., Hirao, T., Fujii, S., & Murakami, M. 2011. Phylogenetic beta diversity reveals historical effects in the assemblage of the tree floras of the Ryukyu Archipelago. *Journal of biogeography*, 38(5): 1006–1008.
- Nakamura, K., Suwa, R., Denda, T., & Yokota, M. 2009. Geohistorical and current environmental influences on floristic differentiation in the Ryukyu Archipelago, Japan. *Journal of Biogeography*, 36(5): 919–928.
- Raskoti, B. B., Schuiteman, A., Jin, W. T., & Jin, X. H. 2017. A taxonomic revision of *Herminium* L. (Orchidoideae, Orchidaceae). *PhytoKeys* 79: 1–74.
- 志内利明・堀田 満. 2015. トカラ地域植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 368 pp.
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西 亘. 2022. 鹿児島県の維管束植物分布図集—全県版—. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 526 pp.
- 遊川知久. 2015. ラン科. pp. 125–164. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司（編）. 日本の野生植物1. 平凡社, 東京.